

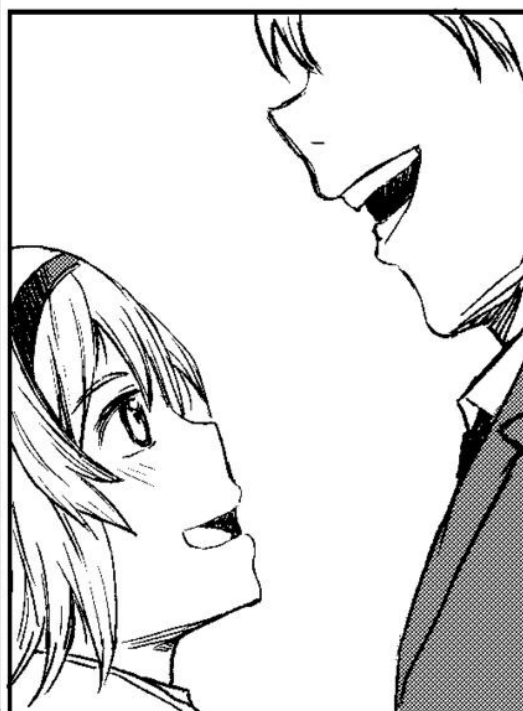
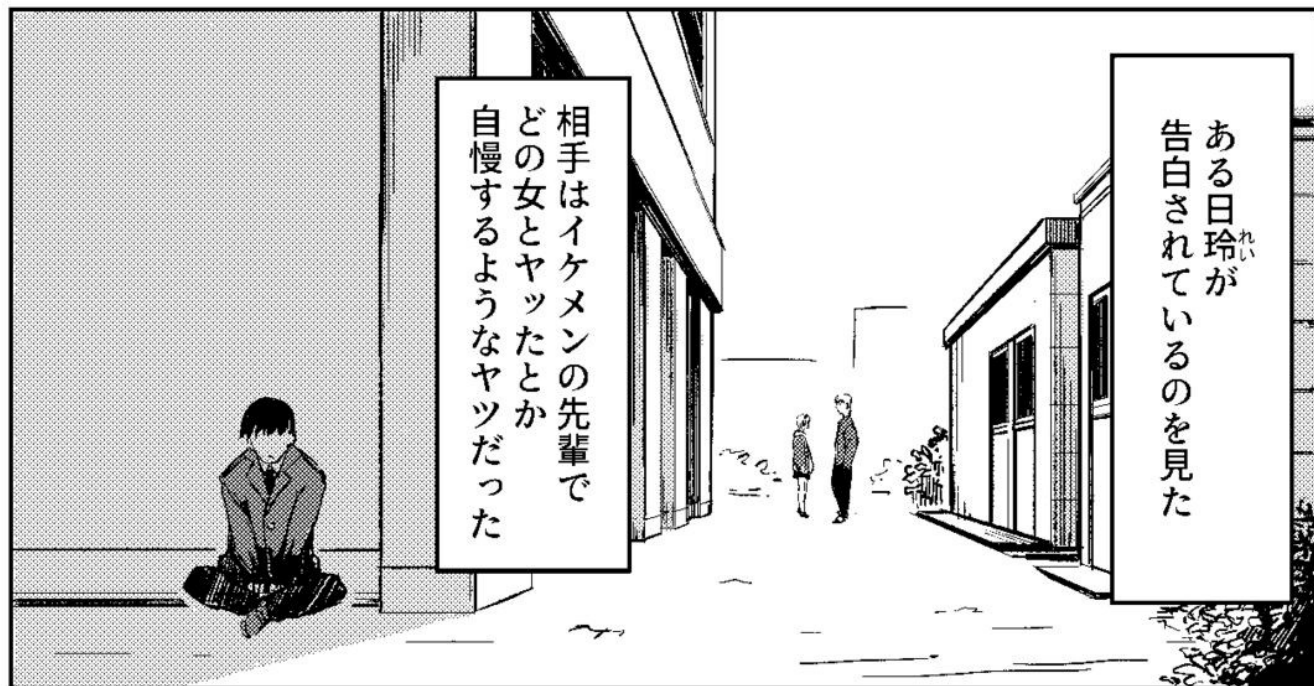


ボクは幼い頃から
かすみれい
花澄玲のことが
好きだった



ある日玲^{れい}が
告白されているのを見た

相手はイケメンの先輩で
どの女とヤツたとか
自慢するようなヤツだった



玲^{れい}が
そんな最低な男に
笑顔を見せたのが
ひどく悔しかった



しばらくして玲^{れい}を
「秘密基地」に呼び出した

ボクの
嫉妬心は燃り続け
逆恨みの炎へと
育っていた



別にあの男が
憎かった
わけじゃない

よく2人で
遊んだね

ここで

ただ
玲^{れい}はボクを選ぶと
心のどこかで思っていた



あたしも
彼氏持ちに
なっちゃったし

2人で
遊ぶのも
難しくなったね

ボクらの心は同じだと
信じていた



最初にボクは
唇を奪った

!?

突然のことに
緊張して硬直した玲を
素早くベッドへと繋ぐ

玲は何かを
言っていたが
ボクはそれどころ
ではなかった







友達だと思ってたのに！

その言葉が
ボクを一番傷つけた

うああああ
やめろおお







ただ 玲の初めては そこにはもうなくて 濡れて絡みつく 快樂構造だけが あった











で
射精
てる...

ああ...

あッ

あッ

はッ

せッ...

ビクッ

ビクッ

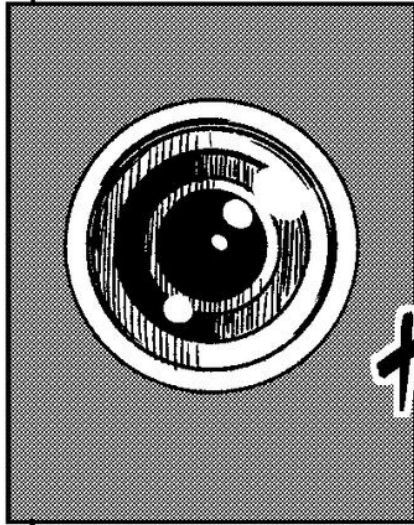
——
ジュウッ

ジュウッ
ジュウッ
ジュウッ



こうしてボクらは
繋がることのできた

カッ

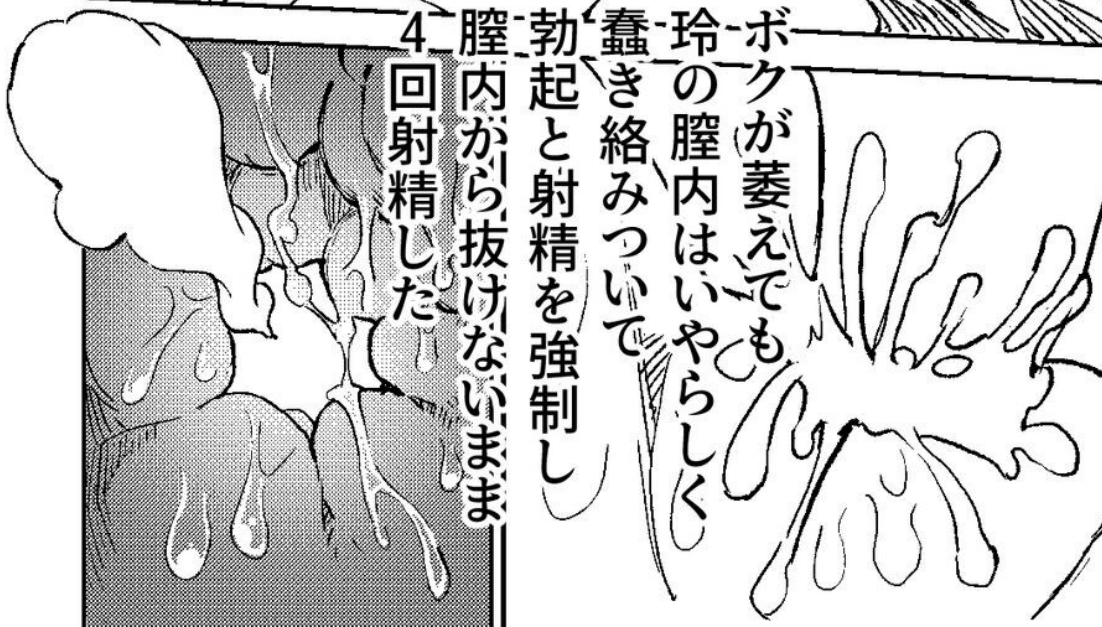


カッ



玲は嫌がっていたが
玲の膣内は
ボクのペニスを愛撫して
精液を無理やりに搾り取った

カッ



ボクが萎えても
玲の膣内はいやらしく
蠢き絡みついて
勃起と射精を強制し
膣内から抜けないまま
4回射精した





THE END